

第18回S A A R C首脳会議開会セッションにおける
岸田外務大臣ステートメント骨子

1 冒頭

- 第18回首脳会議の開催に祝意。議長国ネパールの尽力に感謝。
- S A A R C事務局の域内協力推進への取組に敬意を表明。
- 9月初旬のインド北部及びパキスタン北東部における洪水による被害者及び10月のヒマラヤ山脈における吹雪・雪崩の被害者にお見舞いと哀悼の意を表明。

2 日S A A R C協力

(1) S A A R Cの重要性と日本の取組

- 日本は、S A A R C及びS A A R C諸国との協力関係強化を重視。駐ネパール大使をS A A R C常駐代表に任命。
- 今回の会議のテーマは「平和と繁栄のための地域統合の深化」。日本としてもエネルギーや人的交流、民主化・平和構築といった分野でS A A R C各国との協力を推し進め、S A A R Cの域内統合と連結性の協力を貢献していく。

(2) エネルギー

- 電力の安定的供給はS A A R C諸国の共通課題。我が国は、2006年以来過去7回に亘り「日S A A R Cエネルギー・シンポジウム」を開催。
- 来年3月に予定する第8回シンポジウムでは、これまでの議論を総括し、提言として取り纏め、各国ハイレベルにも共有したい。我が国はこれまでに行われた議論等を基に、エネルギー分野、特に電力分野におけるS A A R C諸国間の連結性を強化するためのありうべき協力の方策につき調査を行う。来年のシンポジウムの提言も踏まえ、個別具体的なプロジェクトに繋げていく。

(3) 青少年交流

- 我が国は、2007年から日・S A A R C間の青少年交流を推進してきており、現在もJ E N E S Y S 2.0のスキームの下、青少年交流事業を実施している。2007年から現在までに約2500名の青少年を日本に招へいし、この12月にも64名が訪日する予定。本事業は今年度末の終了を予定しているが、S

A A R C各国と日本との未来を担う若者の信頼構築の土壌を拡充するべく、引き続きS A A R C諸国との青少年交流を推進していきたい。

（４）民主化・平和構築

●S A A R C地域の発展と繁栄、更には域内統合の深化を実現するための最も重要な基礎をなすものが各国における民主主義の確立と平和な社会の実現であると確信。

●今後とも、我が国は、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の取組の一環として、S A A R C諸国における平和構築、国民和解、民主化・ガバナンス強化のための協力を継続していく。

（５）防災協力

●来年３月、第３回国連防災世界会議を仙台市で開催。２００５年に採択された国際的な防災指針である「兵庫行動枠組」の後継枠組を採択する。

●S A A R C諸国も災害に脆弱であり、日本とS A A R C諸国は共に数多くの自然災害を経験し乗り越えてきた。今後の我が国とS A A R C各国との防災協力を更に推進する上でも本件会議は極めて重要。

●S A A R C各国からの最も高いレベルの参加を得て会議を成功させたい。

●会議の開催地である仙台市は、東日本大震災の被災地。我が国の復興の姿を見ていただき、日本の経験と教訓を共有したい。

３ 結語

●南アジア地域がその潜在力に相応しい成長と発展を達成するためには、S A A R C域内での統合が深化し、連結性が高まることでその潜在力を発揮するとともに、S A A R Cと域外の関係国との幅広い分野での連携促進が重要。今回の会議のテーマである「平和と繁栄のための地域統合の深化」は、S A A R Cが目指すべき目標である。

●我が国としても、地域統合の深化に向けてこれまでの協力の積み重ねの上に新たな協力分野を開拓し、S A A R C域内の統合と連絡性の強化に貢献していきたい。今回の首脳会議を通じて、S A A R C域内或いはS A A R Cと関係国との関係がより一層強化されることを期待。

（了）